

霞ヶ浦アカデミー定期連続講座（第1回～第67回）の概要

2014. 8. 5 霞ヶ浦アカデミー

毎月第3日曜日、午後1時30分より水の科学館多目的ホールにて開講

(2008)

回	開催日	タイトル	講師名	概要	参加人数 備考
第1回	11. 19	目で見える霞ヶ浦現代史	大久保 裕司	霞ヶ浦について独自の調査研究をしている講師が集めた昭和20年代以降の航空写真などを通して霞ヶ浦の変貌を語る。	10
第2回	12. 21	霞ヶ浦水資源開発史	木村 陽一	江戸時代の霞ヶ浦と利根川の関係が現在まで尾を引く中で戦後の経済成長と国、茨城県の狙いを見る	21

(2009)

第3回	1. 18	続 霞ヶ浦水資源開発史	木村 陽一	霞ヶ浦の水資源開発の経緯から現在までの流れを概観。	21
第4回	2. 18	江戸時代霞ヶ浦湖岸に移住した人々	野原 小右二	江戸時代中期、越中五箇山から常世の国を求めて霞ヶ浦湖畔へ移住してきた苦難の旅と村づくりを子孫が語る。	22
第5回	3. 15	飢えと米	野口 淳夫	ヒトの疾病の多くが思ったより遺伝的なことについて、糖尿病と飢えの関係を歴史的に考える。	18
第6回	4. 19	アジアからみた世界の環境教育	原田 泰	講師のタイ国での住民参加型水質保全活動支援を通して得られた体験と教訓	14
第7回	5. 17	霞ヶ浦ナマズ雑話	外岡 健夫	霞ヶ浦で猛繁殖のアメリカナマズの生態と、国内や世界のナマズについての蘊蓄を語る	11
第8回	6. 21	鹿行地区の水辺の観光今昔	高埜 栄治	霞ヶ浦や鹿行地区の水辺観光の歴史を振り返り、魅力ある新しい霞ヶ浦観光の掘り起こしを訴える。	17
第9回	7. 19	大人と子供の知恵比べ —霞ヶ浦湖岸模型づくり裏話—	神林 實	霞ヶ浦湖岸の波と水生植物帯の水理現象を説明する手作り模型の制作と維持管理の苦心談。	17
第10回	8. 16	大日塚古墳(沖洲)の石材はどう運ばれてきたのか	海老澤 幸雄	霞ヶ浦周辺の古墳群調査体験から古代の常陸国の繁栄の跡と霞ヶ浦の役割を振り返る。	21
第11回	9. 20	霞ヶ浦の魚社会の歴史—魚類相の変遷とその原	中村 誠	海から淡水化、河川改修による汽水化、水資源確保のための淡水化という歴史の中で魚類相の変化をたどる	水の交流館 12
第12回	10. 18	魚たちの霞ヶ浦水質史	岩崎 順	霞ヶ浦水質の歴史を魚類を主役とする生態系的視で捉え湖再生への基礎情報を提供する。	12
第13回	11. 15	霞ヶ浦水資源開発史3 —銚田地区開発と山口武秀—	木村 陽一	水資源開発事業をめぐる事業者と地域の対立、了解の過程の人間ドラマを住民運動家にスポットを当てて紹介。	17
第14回	12. 20	霞ヶ浦報道をめぐる	岩波 嶺雄	霞ヶ浦や地下水を水源とする飲料水の安全性の問題について、最新的话题を提供します。	14

(2010)

回	開催日	タイトル	講師名	概要	備考
第15回	1. 17	霞ヶ浦につながり夢	市川 紀行	美浦村長として霞ヶ浦とのかかわりで文化レベル向上を目指した村づくりに腐心した経験と地域から全体への夢を語る。	13
第16回	2. 28	霞ヶ浦水質浄化大作戦	浜田 篤信	霞ヶ浦導水事業の一時凍結下で、持続可能な社会を目指す河川管理と生物多様性の両立をはかる市民参加型の事業管理と水質浄化代替案を提起する。	Kフェスタの一環10
第17回	3. 21	対談「霞ヶ浦再生への願い」	小池 三郎 浜田 篤信	石岡市在住の写真家小池氏の霞ヶ浦を題材とする作品を通し作者の霞ヶ浦再生への願いを対談形式で聞きだす。	9
第18回	4. 18	常陸国玉造の自然	柳瀬 徳造	長年にわたり故郷玉造の自然を調査・観察してきた経験を通し、より良い生活環境保全への意欲を語ります。	17
第19回	5. 16	玉里御溜川近世の霞ヶ浦を読み解く	池上 和子	下玉里村(現小美玉市)鈴木家に伝わる古文書を調べて寛永年間に水戸藩専有漁場ができた経緯とその間の漁業状況や社会背景を解説	20
第20回	6. 20	江戸時代の氷質を復元する	浜田 篤信	現在のような水質記録のない江戸時代の水質を湖底堆積物の間隙水分析から復元し人間活動の水質に与えた影響を明らかにして現在の霞ヶ浦環境問題の手がかりとする。	13
第21回	7. 18	旧霞ヶ浦海軍航空隊と山本五十六	木村 陽一	約90年前、霞ヶ浦南岸の阿見村に突如出現し四半世紀後には消滅した東洋一の大飛行場の変遷をたどり、初期に勤務しその後も海軍航空戦力の増強・育成にあたった山本五十六の足跡をたどる。	14
第22回	8. 22	史上最大のアオコ発生之谜	浜田 篤信	昭和48年夏のアオコ大発生は、その原因をめぐる諸説が争われ政治問題にまで発展したが真相未解明のまま37年が経過している。現在アオコは殆ど発生しないが水質の改善は遅々としている中でその原因を冷静に考える。	21
第23回	9. 19	霞ヶ浦水資源開発史(4) —水の科学館の設置から運営へ—	木村 陽一	四半世紀に及ぶ霞ヶ浦開発事業の終盤近くに浮上した水の科学館構想の実現までの経緯と目的・理念を再認識しながら今後も地域発展の核となり続けるための道を探る。	水の交流館 7
第24回	10. 17	こうして環境問題を解決する	原田 泰	参加者からの事例を通してグループ討議で計画⇒実行⇒評価⇒改善の理論と手法を適用しながら、問題解決に必要な力とは何かを学ぶ。	水の交流館 7
第25回	11. 28	潤沼のシジミ減少の謎に迫る	浜田 篤信	全国二位のシジミ漁獲量を誇る那珂川水系潤沼および潤沼川も近年減少傾向にあり、原因は潤沼湖水の酸素量、塩分低下や河川流量の減等によると考えられる。那珂川流量と漁獲量の相関を求め霞ヶ浦導水の潤沼への影響を科学的に評価し導水事業への対応策を再考する。	4
第26回	12. 20	霞ヶ浦舟運史	大久保裕司	高瀬舟→動力船の時代→鉄道、自動車の時代へ、戦後東の間の定期船全盛期の資料をもとに水運史を語る	6

(2011)

回	開催日	タイトル	講師名	概要	備考
第27回	1. 17	霞ヶ浦水資源開発史 (5) 湖岸の土地帰属をめぐる	岩波 嶺雄	湖岸堤用地となる土地の帰属は過去の複雑な経緯から決着に長期間を要したが、関係者への取材から得られた裏面史として整理する。	5
第28回	2. 20	江戸時代後期に霞ヶ浦湖岸に移住した人々 (2)	野原小右二	越中五箇山から湖岸に移住して、新田開発に苦労した往時の先祖の精神を受け継いでいる講師が半生を振り返り湖とともに生きる地域への希望を述べる。	26
第29回	4. 17	白熱討論！魚から霞ヶ浦問題に迫る	浜田 篤信	子供たちの過去1年間の魚類調査結果を総括し、水質浄化については湖内の物質循環をさらに追及してゆく必要性を訴える。	小美玉市生涯学習センター 7
第30回	5. 15	放射能汚染社会に生きる	原田 泰	東日本大震災と福島原発の事故による放射能拡散の実態をみながら安全神話崩壊後の難問にどう対処するかという問題提起	24
第31回	6. 19	さと湖の虫の世界を探検する	広瀬 誠	少年時代からトンボに魅せられヒヌマイトトンボの発見者でもある講師が、トンボのいない水辺の環境は崩壊寸前と訴える。	小美玉市生涯学習センター 7
第32回	7. 17	東日本大震災と霞ヶ浦 (その1)	浜田 篤信	東日本大震災がもたらした霞ヶ浦周辺の被災状況を概観しつつ首都圏の重要水源である霞ヶ浦の新しい時代に向けた開発管理の検討の必要性を訴える。	12
第33回	8. 18	東日本大震災と霞ヶ浦 (その2)	木村 陽一	東日本大震災では茨城県内の河川施設にも大きな被害をもたらした治水の安全度を低下させたが、復旧・復興に向けて従来の防災から減災への意識転換を求める。	8
第34回	9. 18	水は市民のもの (その1)	さかいひろこ 矢野 徳也	霞ヶ浦、中海・宍道湖の水資源開発の本質を看破し生涯にわたってその見直しを求めた故木村龍男の遺稿集編集出版にあたった方たちが思い出を語る。	羽鳥ふれあいセンター 10
第35回	10. 16	今夏のアオコ発生を解析する	浜田 篤信	今夏のアオコ発生の背景を国、県の発表なども含めて大規模浚渫、水位変化、透明度、プランクトンの変遷などから解析し漁獲で魚介類の密度低下をはかり湖内の物質循環速度を抑えて植物プランクトン発生を抑制可能と推論する。	13
第36回	11. 20	自然再生特別講演会 ① 湿地保全とコウノトリ再生 ② トキとウナギで甦る霞ヶ浦、北浦	佐竹 節夫 飯島 博	① 絶滅から36年かかって湿地環境を再生してコウノトリの復活を達成し地域を甦らせた兵庫県の事例を紹介。 ② 霞ヶ浦で自然再生に取り組みトキやウナギの復活を進めている状況を説明。	20
第37回	12. 18	東日本大震災と霞ヶ浦 (その3) 被災の実態と課題	岩波 嶺雄	ジャーナリストとして震災発生直後の湖周辺の被災状況を取材した中での写真を通して復興に向けての課題を提供。	15

(2012)

回	開催日	タイトル	講師名	概要	備考
第38回	1. 15	どうする霞ヶ浦！ 第6期水質保全計画を巡って	濱田 篤信	茨城県が発表した霞ヶ浦水質保全計画案を紹介し水質浄化について話し合う。	5
第39回	2. 19	霞ヶ浦水資源開発史 (6)	木村 陽一	平成4年開館の水の科学館は広報施設の見直し、予算縮減の波を受けて今後の存続が問われているが、その役割を見直す。	12
第40回	3. 18	環境問題解決法 基本と事例研究	原田 泰	身近な環境問題の解決策を事例研究しながらから、霞ヶ浦環境問題の解決に迫る。	8
第41回	4. 15	中世の霞ヶ浦 I	千葉 隆司	なぜ霞ヶ浦沿岸は律宗の布教地として選ばれたか、仏教との関係から霞ヶ浦の歴史を紐解く。	9
第42回	5. 20	① さかなの報告～増えた魚、減った魚 ② 霞ヶ浦の放射能汚染を考える	ジュニアチームと菊地章雄 シニアチームと原田 泰	① ジュニアチームが一年間取り組んだ成果をまとめました。 ② 霞ヶ浦の放射能汚染を考え解決を目指して話し合う。	霞ヶ浦環境科学センター 約100
第43回	6. 17	霞ヶ浦外来魚の動向を追う	菊地 章雄		6
第44回	7. 15	霞ヶ浦のトンボは何処へ行った	広瀬 誠	かつて霞ヶ浦に舞っていたトンボは何処へ行ってしまったのか、霞ヶ浦のトンボの現状と、そこから見た霞ヶ浦についてヒヌマイトトンボ発見者が話す。	8
第45回	8. 19	霞ヶ浦、化学物質汚染史	濱田 篤信	霞ヶ浦で起きた化学物質による水質汚濁の歴史を振り返り、今回の放射性物質流入の霞ヶ浦を考える。	6
第46回	9. 17	放射能除染の最前線：除染の実態と課題	佐々木克典	福島県の放射能汚染現場で除染を体験した講師がその実態と課題について話題提供を行う。	16
第47回	10. 21	徹底討論、霞ヶ浦放射能汚染	原田 泰	霞ヶ浦放射能除染対策として当アカデミーが提起した逆水門順流時開放に対する賛否を受けての修正提案と問題解決に向けての討論する。	11
第48回	11. 18	茨城県の水事情	西原 昇治	東日本大震災において地下水の有難さが再認識されましたが、長年の地下水調査、井戸掘削などで得られた知見から最近の地下水利用の動向を話す。	8
第49回	12. 16	中世の霞ヶ浦 II 西大寺律宗と忍性	千葉 隆司	西大寺の叡尊に戒律を学んだ忍性は政情不安な関東に下向し三村郷極楽寺を拠点に貧民救済、土木工事、救済施設建築などに尽力した。霞ヶ浦周辺の足跡をたどり当時の社会状況を明らかにする。	11

(2013)

回	開催日	タイトル	講師名	概要	備考
第50回	1. 20	どうする、霞ヶ浦導水事業	濱田 篤信	政権交替で事業見直しのため中断中の霞ヶ浦導水事業の採択に至る経緯、国の検討の場「幹事会」の経緯、差し止め訴訟の経緯から那珂川、涸沼の漁業への影響を解説。	7
第51回	2. 17	ウナギ、絶滅危惧種に指定！	濱田 篤信	絶滅危惧種1B指定を受けた日本ウナギ、最近ウナギの産卵場発見のニュースをもとに今後どうなるか、どうすればよいかを考えました。	7
第52回	3. 27	天保の水行直しの真実に迫る	栗原 亮	湖の吐口の洲浚い、葦、マコモなどの刈流しは最初地元の利害対立で難航していたが、幕府が統一して天保年間36年にわたって地元107村に行わせた意義と実態を古文書から明らかにした。	14
第53回	4. 21	地域に根ざした環境教育	富田 俊幸	持続可能な社会実現のための「持続発展教育ESD」による夢実現の担い手育成の重要性を説き、問題解決を目指しての参加体験型環境教育の内容や普及の実態を講演。	7
第54回	5. 19	霞ヶ浦海夫の歴史	濱田 篤信		8
第55回	6. 16	現代の海夫と懇談する I	櫻井・山野	霞ヶ浦で少年時代から家業の漁業を手伝いながら見てきた湖、水環境、漁業の変遷をたどり今後の展望を語る。	9
第56回	7. 14	逆水門の水質影響の研究史	濱田 篤信		8
第57回	8. 18	現代の海夫と懇談する II	海老澤武美	北浦での漁業体験から魚食普及、消費拡大や植生帯再生、子供たちの漁業体験などの活動を通して、湖の管理の方向性を問いかける。	8
第58回	9. 16	どうなった、霞ヶ浦の放射能	濱田 篤信		9
第59回	10. 20	3・11を乗り越えて、水郷水都 全国会議霞ヶ浦退会報告	荒井 一美 政所、菊地	10月12～14日の霞ヶ浦大会では新時代の水問題を全国からの参加者と討議た。その成果とまとめを報告。	6
第60回	11. 17	涸沼のラムサール登録は？	濱田 篤信	茨城県で涸沼をラムサール条約湿地登録の準備をしているとの報道を受けて、この条約の目的、登録の可能性や意義について話題提供します。	6
第61回	12. 15	高浜入り干拓反対運動の真実	渡邊 章	町を二分した高浜入国営干拓事業反対運動の指導部にあつて、成功の最大の武器は指導部の情熱であったと総括。	11

(2014)

回	開催日	タイトル	講師名	概要	備考
第62回	1. 16	霞ヶ浦四十八津を解く	栗原 亮	中世霞ヶ浦四十八津成立の謎、寛永年間の入海争論と淀書き成立の経緯、意義を解説しました。	10
第62回	2. 16	森林湖沼環境税と霞ヶ浦	庄司 仁	平成20年度から導入された県の環境税の意義と効果、泳げる霞ヶ浦への将来展望について講演しました。	10
第63回	3. 16	いばらきの生物多様性地域戦略	山根 爽一	生物多様性の危機と国際的な意識の高まり、国、県の戦略目標と具体的施策と今後のスケジュールを述べる。	13
第64回	4. 20	どうする、植生帯再生？	木村 陽一*	霞ヶ浦開発の功罪の中で湖岸水生植物帯の減少に対して現場調査者などの話題提供と国、県、水機構、漁協などとの連携交流の必要性を討論。	*進行役 10
第65回	5. 18	新時代の水問題に挑む	濱田 篤信	3・11東日本大震災のもたらした巨大システムの管理上の弱点、大型公共事業の生物多様性への影響などをもとに討論しました。	8
第66回	6. 15	水草と魚たちの生活	中村 誠	魚類の回遊パターンをもとに霞ヶ浦に生息する魚類と水生植物帯の関係を明らかにする。	11
第67回	7. 20	水生植物帯を再生する	根本 孝	茨城県が霞ヶ浦で実施してきた水生植物帯再生事業の実績と効果、今後の課題などを提供。	10